



34

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2020年12月27日号

編集 / 毎日新聞社販売局D・クリエーションセンター

連載「コロナで変わる世界 パンデミックと社会」 1月1日(金)から =1~3面

コロナで変わる世界



新型コロナウイルスは、世界各国の人々が同時に巻き込まれた災厄としては、第二次世界大戦以来の規模となりました。危機は社会に変化を迫ります。身近な暮らしの変容に焦点を当てた第1部に続

き、第2部では国家のあり方や人々の格差、環境などグローバルな課題にパンデミック（世界的大流行）が与えた影響を描き、2021年の世界を展望します。

「嵐」が活動休止で最後のライブ

29日(火) =社会面



ジャニーズ事務所所属の人気グループ「嵐」が31日、最後のライブを開いて、グループとしての活動を休止します。20年以上の長きにわたりテレビにステージに大活躍し、日本の

音楽シーンのトップを走り続けた5人組は、なぜ「国民的アイドル」となり得たのでしょうか。その歩みを振り返りながら、エンタメの変遷、「ポスト嵐」を展望します。



新型コロナウイルスの猛威は、いまだやみません。ニッポンの「成熟」をアピールするはずだった2020東京オリンピックも延期となりました。距離を取って生きる病

の流行は、私たちにいろいろなものを見求められる新たな病



連載「夜明けを待つて」

31日(木)から =社会面

特集 ワイド

コロナ禍で世界に響いた韓国歌謡100年

28日(月) =夕刊特集ワイド

コロナ禍の2020年は韓国エンタメ、とりわけ大衆歌謡が気を吐いた年になりました。米グラミー賞にノミネートされたBTS(防弾少年団)の快進撃、韓国国内にあっては空前のトロット(演歌)ブームが続きました。

いったいなぜ、隣人たちはかくも歌を愛し、その歌が心に響くのでしょうか。「エレジーの女王」といわれる歌手、李美子さん=写真=の近況をまじえつつ、韓国歌謡の100年を考えてみました。



一つ一つのたすきに思いを込めるスポーツ。駅伝最高級の私にとつて冬月のクイーンズ駅伝、12月の全国高校駅伝、元日のニューイヤークリスマス(いづれも毎日新聞社など主催)。そして箱根駅伝と続きます。都大路を駆け抜けた原石がさらに磨かれた会人になって戻ってくると。駅伝シーズンをもっと視点で見ると、いつもと違った一年も暮れます。来年も思いを込めて皆さんに「記事すごい」をお届けしていきます。(中本慎二)



「写真説明」「道の駅」の駐車場で車上生活するジュンさん(仮名) 群馬県内で12月15日、吉田航太撮影